

こうち+クロス

高知赤十字病院
広報誌

ご自由に
お持ち帰りください



特集：超音波内視鏡検査(EUS)のご案内



高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。

新年のご挨拶

高知赤十字病院長 谷田 信行

県民の皆様、明けましておめでとうございます。常日頃からの病院へのご支援、ありがとうございます。

昨年正月に発生した能登半島大地震では、甚大な被害が発生し、今も避難生活が続いている状況です。当院からもDMAT、救護班が出動し、災害支援に当たりました。この貴重な経験を来たるべき南海トラフ地震に活かしたいと考えています。

さて、日本の人口は2008年を境に減少を続けていますが、2025年には約800万人いるとされる全ての「団塊の世代」(1947～1949年生まれ)が後期高齢者(75歳以上)となることで、国民の5人に1人が後期高齢者という超高齢化社会を迎えます。このため、社会保障費が増大し、医療・介護の体制維持が困難となります。これがいわゆる2025年問題です。

このことに対処するために、国は税・社会保障費の一体改革(消費税増税を含む)や地域包括ケアシステムの構築を行ってきました。ご承知のように、地域包括ケアシステムは、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されることにより、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように支援することです。このシステムは、現在も継続している地域医療構想と相互に補完する関係です。私たち高知赤十字病院は、この中で高度急性期、急性期機能を担っており、このことは今後も継続して行きます。

日本赤十字社の使命は、「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。」というものです。医療・ケアを必要とする『患者さん』がいるから病院があるのであり、まず病院があって、『患者さん』がいるのではありません。患者さんの生活には連続性、継続性が不可欠であり、その生活を中心に据えて全てを構築する必要があります。このことは、地域包括ケアにつながります。

高知赤十字病院は、今後も県民の皆様が必要とされる病院であり続けたいと思います。



伊藤事務部長

小松看護部長

谷田院長

溝淵副院長

田笠副院長

令和6年度産科医療功労者 厚生労働大臣表彰をいただきました

第一産婦人科部長 平野 浩紀

このたび令和6年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰という私には似つかわしくない賞をいただきました。

さて、私の何が産科医療に功労したのか・・・？

以前より行っている新生児蘇生法と母体救命法の講習会の企画開催とのことです。

【新生児蘇生法講習会(NCPR)】

出生とは、一生で、最も危険な瞬間と言われ、15%が何らかの蘇生処置を必要とします。“すべての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当者として立ち会うことができる体制”の確立

を目指し、出生時に胎外呼吸循環が順調に移行できない新生児に対しての適切な心肺蘇生法の習得を目的とした講習会です。対象は医師、助産師、看護師、救急隊員、医療関係の学生で、当院では2009年に第1回を開催し、本年10月末までに144コース、県内外よりのべ1235名の受講者を受け入れてきました。これは全国トップレベルです。この講習会が全国で開催されるようになってから早期新生児死亡率が約0.1(出生1000対)から約0.06に低下しています。



2011年NCPR News letterより

【母体救命講習会(J-MELS)】

日本では年間約40名の妊産婦死亡例があります。妊産婦死亡の更なる減少を目指し、あらゆる職種の周産期医療関係者に標準的な母体救命法の習得を目的とした講習会です。対象は医師、助産師、看護師、救急隊員、助産学生で、当院では2017年に第1回を開催し、本年10月末までに48コース、県内外より(遠くは北海道、鹿児島より)のべ936名の受講者を受け入れてきました。これは全国トップレベルです。この講習会が全国で開催されるようになってから、出血による母体死亡は明らかに減少してきましたが、劇症型A群溶連菌感染症や循環器系の疾患による死亡が目立ってきています。



地方の病院では、各専門分野の医療従事者数が十分満たされているとは言えません。突如専門分野の垣根を越えて対応しなければならなくなることもまれではなく、命を救うためには専門の医療従事者にバトンタッチするまでの初期対応が重要となります。しかし安全は担保されていなければならず、その時のために日頃よりシミュレーショントレーニングが必要となります。

産科に関しては、出生時の異常に対して小児科医にバトンタッチするまで、母体の急変時には救命医にバトンタッチするまでの初期対応が大切になってきます。

これからの日本は、いやそれ以前にこれからの高知では医療必要度は増すのに医師不足は進んでいきます。私はもうすぐ現役引退ですが、後進には何とか頑張っていたいただきたいと思います。



膵臓や胆道の精密な評価に欠かせない

超音波内視鏡検査 (EUS) のご案内

当院では積極的に
EUSによる診療を
行っています。

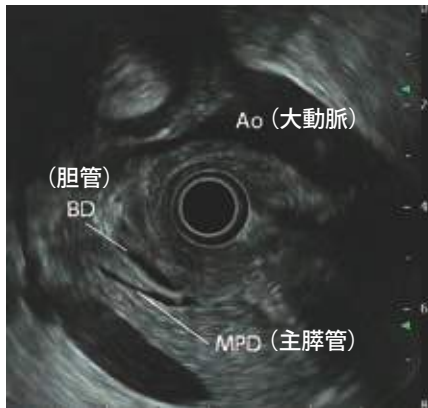
超音波内視鏡 (EUS) とは？

超音波内視鏡は、内視鏡と超音波を組み合わせた検査です。内視鏡に取り付けられた超音波プローブ(超音波機器で身体に当たる部分)を使い、胃や十二指腸から胆管や膵臓を近距離で観察します。

画像提供：オリンパス株式会社



超音波内視鏡が十二指腸に入っている図です。角度をかえて、膵臓や胆管、膵管を観察します。



十二指腸からみた超音波内視鏡像で、膵臓と胆管、膵管がうつっています。解像度が高く小さな異常を発見できます。

20 - 30分
鎮静内視鏡
で行います



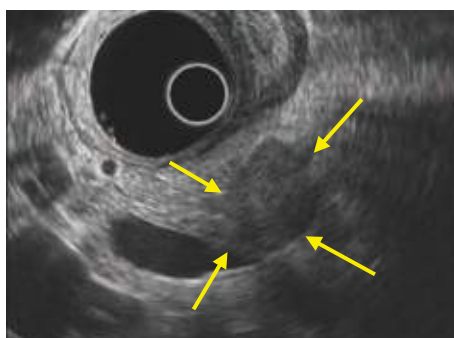
EUSを受けてもらいたい方

- 膵がんの家族歴
- 糖尿病(特に発症1年以内)
- 慢性膵炎
- 膵嚢胞
- 膵管拡張
- 膵管内乳頭粘液性腫瘍
- 急な体重減少
- 長引く腹痛・背部痛

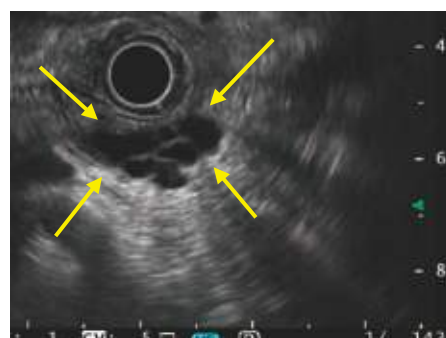
■ 腹部超音波や造影CTで描出できない1cm以下の膵がんの診断に極めて有用です。

膵がんの早期発見・膵臓の腫瘍や嚢胞の診断

膵がんや膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) など、膵臓の腫瘍や嚢胞の早期発見に効果的です。EUSは他の画像診断よりも精度が高いため、膵がんの早期診断や、腫瘍の形状・大きさ・広がりにより詳細に観察できます。



膵がん



IPMN

◆膵がんの大きさが**1cm以内**であれば、長期の予後が期待されます。

Stage	頻度 (%)	10年生存率 (%)
0	0.7	94.7
IA(T1a+T1b(≤10mm))	2.3	93.8
IA(T1c(10mm< ≤20mm))		78.9

Kanno A, Masamune A, Hanada K, et al : Multicenter study of early pancreatic cancer in Japan. Pancreatology 18 ; 61-67 : 2018



早期発見できれば
10年生存率90%
以上!
気になる症状をお持ちの方はぜひご
相談ください。

胆管や胆嚢の異常

胆管結石、胆管がん、胆嚢ポリープなど、胆管や胆嚢に関連する疾患の診断にもEUSが使われます。超音波による詳細な画像が得られるため、病変の位置や性質を正確に評価できます。

大画面モニター(55インチ)でCTやMRIの画像を横に並べ確認しながら、EUSで観察することができます。



病変の組織採取

必要に応じて、EUSガイド下で針を使った生検(細胞診)も行えます。これは、病変が悪性か良性かの判断や、病理診断に役立つ情報を提供します。特に膵臓や胆管の腫瘍診断において、この組織採取が治療方針の決定に重要な役割を果たします。

消化器内科の紹介

消化管(食道・胃・十二指腸・小腸・大腸)・肝臓・胆道(胆嚢や胆管)・膵臓などを専門としています。



膵がんは初期の自覚症状がほとんどなく、早期発見が難しい疾患です。しかし、早期に発見できれば高い治療率が期待できます。膵がんのリスクが気になる方は、お気軽に当院の消化器内科までご相談ください。かかりつけの先生がいらっしゃる方は、紹介状をお持ちいただけると大変ありがたいです。

消化器内科
ホームページ
はこちら





当院のアドバンス助産師

- 眞鍋 敦子
- 島村 順子
- 向井 直美
- 野々村 真智
- 山野上 紗野子
- 押川 愛恵
- 掛水 裕子
- 大黒 靖奈
- 猪野 郁美
- 深谷 遊津代

助産師とは

妊産婦への保健指導や出産の介助、産後の母子のケアを担っています。他にも、育児指導や不妊治療を行っている夫婦の相談、思春期更年期の性と健康に関する相談など、女性の一生に寄り添う仕事です。

アドバンス助産師とは

一般財団法人日本助産評価機構が運営する「CLOCMiP (クリニカルラダー) レベルⅢ 認証制度」の認証を受けた助産師がアドバンス助産師と呼ばれます。助産師が日々の業務に従事している中で、社会の要請に応じた能力に対応できる経験を積んでいるか、必要な研修を受講しているか、助産に関する知識や技術をブラッシュアップ出来ているか等を確認します。この資格は5年更新で、常に新しい知識・技術が求められています。

アドバンス助産師は全国に8951人、高知県には63人います。(2023年12月現在)高知赤十字病院には、県内の分娩取り扱い施設で最多の10名が勤務しています。さらに複数名の助産師が資格取得に向けて準備をしています。



授乳のお手伝い



新生児室での援助

助産師とアドバンス助産師の違いは？



アドバンス助産師はあくまでも助産師の能力を認証する資格であり、できる事は助産師と明確な違いはありません。ただし、アドバンス助産師は専門的自律能力や実践力のある助産師で、より質の高い助産ケアを提供できるとみなされます。



出産時のケアや介助

当院の 助産師の活動

高知の周産期医療を支える
ため活動しています

病棟内での妊産褥婦・新生児のケアだけでなく、産婦人科外来で妊婦健診の保健指導、母乳外来、産後健診を担当しています。他にも、院外に出向き赤ちゃん訪問や小学校や中学校などでの「いのちの教育」、母体救命講習・新生児蘇生法のインストラクターなど様々な活動をしています。



当院では、夜間休日の電話相談、正常分娩、産褥期の管理、新生児の管理など助産師に任されています。患者さんの訴えに耳を傾け、正常から逸脱させないケアの実施、異常時は早期対応できるように適宜医師に報告相談しています。家族と一緒に安心して出産できる病院でありたいと、コロナ禍でも一部制限はありつつも家族立ち会い出産だけは続けてきました。最近では、コロナ禍のため中止していた子どもさん(小学生以上)の立ち会い出産を再開しました。今後も医師、地域の保健師との連携など多職種が同じ目標を持ってよりよい周産期医療を提供できるよう取り組んでいきます。

産婦人科医募集

高い安心感と満足度で
生命の誕生をサポート

陣痛から分娩後まで
家族と過ごせるLD室を新設

詳しくは
こちら
→



糖尿病チームの活動報告

6階東病棟 濱田 一豊

糖尿病をもつ患者さんは、合併症が悪くならないように自己管理をすることが大切です。

患者さんのより良い糖尿病管理につながる視点で、糖尿病チーム全員が、患者様の生活の質の向上に向けて尽力しています。一緒にがんばりましょう。



主な活動内容

糖尿病チームメンバー：医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士・検査技師など

- 外来糖尿病教室、糖尿病センター外来、糖尿病教育入院に取り組んでいます。
- 月1回集まり、それぞれの取り組みについて活動報告しています。



「褥瘡対策床ずれ研修会」開催

7階西病棟 池田 美穂

体験型勉強会として、当院では「褥瘡対策床ずれ研修会」を開催しています。コロナ禍であったため、今年は久しぶりの開催となり、10施設32名のたくさんの医療従事者の方にご参加いただきました。スキンケアとおむつの当て方について学んだ後、スキンケア用品を用いて実際に洗浄・保湿・保護といった基本的ケア方法を体験し、テープの貼り方や剥がし方は普段使用するテープを用いて実践しました。おむつの当て方についてはおむつの構造を学び、基本的で正しいおむつの着用方法や注意点を覚えていただきました。時間に限りがあったため、おむつの装着については希望された方だけの体験となりましたが、普段穿くことのないおむつを穿き、正しく装着できていなければ患者様に不快感を与えてしまうことを、体験を通して学んでいただきました。

体験型勉強会は実践を通して、学ぶことで現場でも活かしやすく、また患者様を理解する上では非常に有効な学習方法です。患者様が安心した日常生活が送れるように、今後も体験型勉強会を実施し、患者様の生活がより良いものとなるように学びを深めていきたいと思っております。



日本赤十字社高知県支部 災害医療救護訓練に参加して

救命救急センター病棟 関 北斗

11月3日(日)、4日(月・祝)に開催された日本赤十字社高知県支部災害医療救護訓練にスタッフとして参加させていただきました。

初日は、広域災害・遠隔地派遣のグループワークから始まり、災害時に使用する様式として、災害診療記録とJ-SPEEDの使用方法やEMISの操作方法など実際にタブレットやスマートフォンを使用し、災害時における情報共有の方法やその重要性を学びました。

2日目は、高知県立地域職業訓練センターで新しいエア TENT や dERU の展開、また、実際の災害を想定した「救護所活動」や「避難所活動」を行いました。傷病者のトリアージから処置、搬送を円滑に行うための役割分担やコミュニケーションの重要性を学ぶことが出来ました。

今回はプレイヤーとしての参加ではなく、スタッフ側としての参加でしたが、救護班の皆さんや、医師、研修医の皆さんの実動訓練を通して多くのことを学ばせていただきました。

今回の訓練で学んだことを忘れず、適切な対応が出来る様に、今後も訓練や研修に参加していきたいと思います。



医事課 上村 裕希

11月3日(日)、4日(月・祝)に開催された「令和6年度日本赤十字社高知県支部災害医療救護訓練」に救護主事として参加しました。

3日は、広域災害・遠隔地派遣についてグループワーク、災害時に使用するアセスメントシートの確認、EMISの入力方法や災害図上訓練をしました。特に、救護主事の役割でEMISの入力方法は活動状況の報告や災害現場の状況を把握するために確実にマスターする必要があると感じました。

4日は、テント設営と実働訓練として救護所活動・避難所活動を行いました。テント設営は初めての経験でしたが迅速な設営のために定期的に復習することが必要だと思いました。

私は2024年1月に発生した能登半島地震における日赤救護班として活動しましたが、現地で活動するためには今回のような救護訓練が重要なことを改めて感じました。いつか来る南海トラフ地震等の災害に備えるためにも訓練で学んだことを振り返り今後の訓練に参加していきたいと思います。



令和6年度大規模地震時医療活動訓練に参加して

第二検査部長 山崎 浩史

本年9月27、28日に、関東4都県(神奈川県、東京都、埼玉県、千葉県)にて、首都直下地震の想定で令和6年度大規模地震時医療活動訓練が行われました。私は、厚木市立病院に設置された、神奈川県の県央医療圏DMAT(災害派遣医療チーム)活動拠点本部の、訓練コントローラーとして参加しました。DMAT活動拠点本部というのは、担当医療圏で活動するDMATの「とりまとめ」を担う部門で、患者さんの搬送や物資の支援等の調整・差配を行います。今回コントローラーとしてその訓練の想定付与や時間管理等を行いました。担当地域は内陸部のため津波は来ませんが、揺れは強く液状化もある

想定は、来る南海トラフ地震と同様であったため、南海トラフ地震の際には今回の訓練経験を活かしたいと存じます。



種々の情報を提示



関係機関とweb会議



インターネットから情報収集中



支援に来たDMATと対応検討中

赤十字救急法に参加して

救命救急センター外来 武藤 百葉

9月7日(土)から9月9日(月)に行われた赤十字救急法に参加しました。

一日目は、一時救命処置(心肺蘇生、AEDの使用方法)について講義と実技を行いました。この学びを活かせる場面に出会うことは少ないと思いますが、学んだ技術と知識を今後にも活かせるようにしていきたいです。

二日目は、三角巾を使って、止血法、傷の手当て、骨折の手当てを行いました。また、担架を使った搬送も行いました。目的や受傷部位によって三角巾の幅や固定の方法に違いがあり、覚えるのが難しかったです。搬送では、声かけの順番や相手への伝え方の部分が難しかったですと感じましたが、なんとか行うことができました。

三日目は、この二日間で学んだことの試験がありました。試験という中で正しく、丁寧にこなすことに緊張しましたが、無事終わってよかったです。

この研修に参加して、手順を理解するだけでなく、なぜそのように行うかを理解することで、より手技の理解が深まり、自分の身になると感じました。この学びを病棟でも活かしていきたいです。



CAFE CROSS

★ 研修医一年目のご紹介 ★

RESIDENT INFORMATION



ひらい ともひろ
平井 智大 (山口大学卒)

医師を志したきっかけは?

元々人の役に立つ仕事に就きたいと考えており、自分自身人と話すのが好きなので、対話の機会が多く、かつ人の困りごとを解決できるこの仕事が自分に合っているのではと考えたからです。



これが好き♡

美味しいものを食べることと、あとはゲームが趣味です。就職してからは専ら大会などの観戦がメインとなっていますが、自分よりも若い選手や同世代の選手が世界を舞台に戦っている姿を見ると、自分も頑張ろう!と励まされます。



私、スゴイんです♪

楽器が弾ける!とか〇〇語が話せる!のようなキャッチーな特技が無いことにこれを書いているときに気がつきました。強いて言うなら夜型人間なので、当直業務中も19時過ぎぐらいからだんだん元気になってきて、24時くらいまでは元気な状態をキープできます。



研修への意気込みをひとこと★

この原稿を書いている時点で早くも研修開始から半年が経ってしまいました。出来ないことがまだ沢山ありますが、出来るようになったこと達を自らの支えとして、今後も研修に邁進していきたいと思えます。



ひらおか もも
平岡 桃 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは?

祖父ががんで亡くなった時に、悲しさと同時に祖父がしんどいときに何もしてあげられなかった悔しさを感じました。なので、自分のように大切な人が病気で亡くなって悲しい思いをする人が少なくなればいいなと思い医師を志すようになりました。



これが好き♡

好きなものはバスケットと旅行です。バスケットは中学校から続けており、ありがたいことに日赤のバスケット部にもお誘いいただき、参加しています。旅行は主に国内ですが、全国のおいしいカフェを探し求めて足を運んでいます。



私、スゴイんです♪

いつも自慢していることは誕生日です。自分の誕生日は4月3日ですが、実の母親と誕生日が同じです。ネットで調べると母子で同じ誕生日になる確率は0.00019%みたいです。もはや同じ誕生日に生んでくれた母親の方がすごいのですが... 笑。



研修への意気込みをひとこと★

自分が生まれ育ったこの高知で、いつか自分がお世話になっている人たちに恩返しができるよう日々精一杯頑張ります。まだまだ未熟者ですがこれからもよろしくお願ひします。

第62回大韓臨床病理士協会総合学術大会に参加して

臨床検査技師 高野 静香



アニョハセヨ
初めての国際学会で
緊張している高野です

2024年8月30日～31日に韓国・仁川広域市で開催されましたKAMT (The Krea Association of Medical Technologists) 総合学術大会においてポスター発表をさせて頂きましたので報告致します。(一社)日本臨床衛生検査技師会と大韓臨床病理士協会は1980年に日韓協定を締結してから互いの総合学術大会に必ず参加しており、学会にはアジア全域から参加する国際シンポジウム・学生フォーラムとポスター発表のセッションがあります。今回、日本からは41名参加し、私も「The importance of communicating with patients during nerve conduction study (NCS) for diabetic polyneuropathy (DPN) workup」と題し、糖尿病神経障害の精査である神経伝導検査の際に、患者さん自身も気付いていない手根管症候群などの糖尿病神経障害ではない神経障害が見つかる事があり、結果の整合性とするためにも検査を行う際に患者さんと良好なコミュニケーションを図り、原因となる生活習慣を知る事が診断や治療において重要である…という内容の発表を行いました。私の専門は神経伝導検査や脳波検査などの「神経生理」という分野の検査ですが、同じ分野を専門とする韓国や台湾の技師達とも情報交換ができ、大変有意義な学会参加となりました。これからも広い視野を持ち技術を磨く事はもちろんの事、患者さんと同じ目線に立って検査を行ってまいりたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



新入職員リフレッシュ研修

今年は新入職員31名で、香北青少年の家と香美市香北体育センターに行ってきました。
普段なかなか関わる機会のない方とも楽しく交流ができたようで、みなさんいきいきとした表情をしていました。



新入職員紹介 (同意の方のみ掲載)

(令和6年9月1日～令和6年11月30日)

氏名
職種・所属
●趣味・特技
●抱負



松岡 健幸 まつおか たけゆき
事務職(臨床工学技術課)

- 趣味・車椅子バスケ 特技・ボウリング(最高スコア240点をとったことがあります)
- 職場や趣味の車椅子バスケでも、チャレンジ精神を忘れずに新しいことを多く覚えられるよう頑張ります。

高知赤十字病院
ホームページ

<https://www.kochi-med.jrc.or.jp/>



高知赤十字病院
Facebook

<https://www.facebook.com/krch.kouhou/>



よろしければ
フォロワー登録
お願いします



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。
本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))

